

教育委員意見交換会

日 時 令和 8 年 8 月 14 日（金曜） 午前 10 時 50 分～午前 11 時 14 分

場 所 堺市役所 本館 3 階大会議室第 3 会議室

出席者 豊岡敬委員 新谷奈津子委員 長田翼委員 大内秀之委員 中村善彦委員

（事務局） 寶子英司教育次長

休場理夫教育施設技術監

守谷奈津美教育監

富岡重幸教育監

長尾正志総務部長

西尾朋章教委総務課長

高山宗寛教職員人事部長

藪上智行教職員人事課長

井村美穂教育センター所長

桑田裕介教育センター部理事

尾下英夫能力開発課長

樋口信征教育政策課長

川原拓教育政策課課長補佐

案 件

- ・堺市立学校長の庁内公募について
- ・令和 8 年度全国学力・学習状況調査等の調査結果について
- ・その他非公開案件 2 件

・堺市立学校長の庁内公募について

小・中学校の校長人材を、庁内より公募することについて報告するもの。

（主な意見）

- ・ 3 年間の任用期間終了した後は、元の所属に戻るのか。
- 任用期間終了後の配置については、元の所属への復帰又は他部署への異動を含め、現時点では未定である。
- ・ 任用後の処遇が明確でないと、応募をためらう人もいないのか。
- 本人の意向も確認しながら、人事上の配置を検討する必要があると考えている。
- ・ 応募者数の見込みはどの程度か。
- 応募を検討している職員が一定数いるとの情報を得ているが、具体的な応募者については現時点では把握していない。初めての取組であるため、応募者数を見通すことは難しいものの、多くの職員に関心を持ってもらえるものと考えている。

・令和 8 年度全国学力・学習状況調査等の調査結果について

令和 8 年度全国学力・学習状況調査、大阪府すくすくウォッチの堺市調査結果について報告するもの。

（主な意見）

- ・ 英語のグラフのみ正答数ではなく、IRT バンドによる分布で示しているのは意図があるのか。
- 英語は生徒によってランダムに異なる問題が出題されるため、正答数ではなく IRT バンドによる分布で示している。なお、共通問題もあり、総問題数は同じである。
- ・ 国語、算数・数学については、全国や大阪府と比較して、解けた問題の数が 0 ～ 3 の児童生徒の割合が高く、一問だけ解けなかった児童生徒や、全問解けた児童生徒の数が低い。このことから、学力下位層への対応が中心となり、学力上位層向けの授業が難しい状況が推察される。その結果、主体的・対話的な深い学びや ICT の活用の

数値の低下に影響している可能性があると考えられる。この点に関して、これまでも様々な対策を実施しているが、家庭学習等、継続して取り組む必要があると思う。また、国語と数学に共通して求められるのは国語力であると思う。複雑ないくつかの情報を読み取り、自分の経験や考えを結びつけ、それを表現するのが国語、そこから何らかの問題の解決方法を見出すのが算数・数学となっている。国語力には、忍耐力を持ちながら何かを読み解く力が重要であり、それは読書でしか伸ばせないものがあると思う。長時間の SNS 利用という課題も踏まえ、忍耐力を持って、じっくり文字を見ながら、自分の知識と照らし合わせて書かれていることを理解する力の育成が、学力調査に良い影響を及ぼすかもしれない。

- ・ 小学校・中学校ともに ICT 機器の使用頻度が前年度より低下し、全国平均との差が見られる点が気になった。現場ではどのような問題があるのか。こどもから端末トラブルや通信環境の不具合による使いづらさの声も聞くが、機種が更新されて、現場では昨年度より使いやすくなったという声はあったのか。
- ICT 機器の使用自体は行われているが、実際の活用と児童生徒の実感との間に差がある可能性がある。また、通信環境や端末トラブルが課題となっていたが、一方で、新端末導入後は起動速度の向上や不具合の減少といった改善が見られているため、今後も環境改善と併せて ICT 活用を推進する。
- ・ 中学生を中心に家庭学習時間が増加し、全国平均を上回っている要因はなにか。
- 家庭学習に特化した取組は実施していないが、「学びのコンパス」の考え方にに基づき、こどもたちが自らの学び方を自覚し、進めていることが考えられる。また、授業と家庭学習を関連付けた学習計画の推進を学校に声かけしている。さらに、中学校では定期テストや入試といったこともあることを踏まえると、他の要因で高まっていることも考えられる。
- ・ 家庭学習時間の増加は好ましい傾向であり、その要因をさらに分析し、今後の取組に繋げてほしい。